モード Mode は語る

# 社会貢献志向が織りなす

中野　香織

## タペストリー・シック

生地に複雑な模様をプリントすることも楽にできる時代である。にもかかわらず、精緻に刺しゅうされ、豪華に織り上げられたタペストリーのような生地を使ったアイテムが、この春夏に多く見られた。ジバンシーは詩人のボードレールにヒントを得たタペストリー・コートを発表。グッチはベルベットのジャカード織りの生地と皮革を組み合わせた、花柄のタペストリー・リュックを出した。ストリート系のオフ・ホワイトまでがタペストリー・ジャージーを販売。どういうことなのか？

サステナビリティー重視の流れがあるだろう。手間暇かけられた織物で作られたものは、形が古くなってもリッチ感が失われず、おいそれと捨てられない。結果、長く使い続けるので環境にも優しい。職人の技術を保護する目的もあろう。人間が歴史を通して磨き抜いた高度な伝統技術を現代モードに生かし、次世代に伝えることは社会貢献にもなる。

現代にふさわしい理想を反映したファッションアイテムは、それゆえに、おそろしく高価である。芸術品のような服を買うことで作り手を支援できるのは、ほぼ富裕層のみ。タペストリー・ジャージーは20万円弱。タペストリー・リュックは約45万円。18世紀フランスの宮廷服を連想した。刺しゅうたっぷりの宮廷服を着ていたのは貴族だが、彼らもまた、職人技が生きる服を購入し、着ることで、職人の生活を支えたのである。

タペストリーは壁に飾るが、起源はじゅうたん。美しい織物を踏むのは忍びないと壁に飾られた。タペストリーを用いたアイテムを眺めると、サマセット・モームが「人間の絆」で書いた「人生はペルシャじゅうたん」との人生観を思い出す。人生に意味はなく一生は織り上げられた一枚のじゅうたんという考えで、明るい部分も暗い部分も深みのあるじゅうたんを構成する要素だ。

ファッションも似ている。サステナビリティー志向、社会貢献への配慮、格差問題などの明暗入り交じる糸によって、タペストリー・シックというトレンドが織り上げられている。　（服飾史家）

グッチのバックパック